

学年	教科等	題材名	日時
第3学年	音楽科	よくきいて アンサンブル	令和2年1月31日(金) 4校時

子どもが主体的に音楽と向き合うための題材構成の工夫

【題材の教材曲とのつながりのある曲の挿入】


第2学年で学習している「やまびこごっこ」を題材の展開部分で用いた。この曲は「かけ合い」で構成されているため、本題材の曲の構造を理解する手がかりになると考えた。フレーズによってスタッカートやスラーで歌いわけができるため、様々な表現方法の違いを感じながらかけ合いを楽しむことができた。その学びを生かして「せいじゃの行進」では、スタッカートやスラーの演奏効果を実感しながら表現の工夫をしていた。

豊かな表現をつくり上げるための対話の在り方

【毎時間の学びの成果を基にした対話】

本題材の学習のなかで重点的に取り扱う、かけ合いや音の重なりについての対話の機会を意識的に設けた。毎時間、スタッカートやスラーについて学んだことを学習プリントに記録させ、それを用いてどのような表現がよいか対話させることで、感覚的に「スタッカートがいいよね。」ではなく、「スタッカートは、ジャンプして元気な感じがするから。」と、音を介して演奏効果と感じたことを交えながら対話することができた。

曲想について（どのような演奏にしたいか）思考




元気な行進の感じだといいな。

それならスタッカートで演奏したいな。



楽しくてわくわくする演奏にしたいです。



音をぴったり合わせて演奏することも大切です。

曲の雰囲気合う演奏にするためには、どんな表現にするとよかったのかな。これまで学習してきたことを使って、グループで演奏しながら表現方法について話し合ひましょう。

グループでかけ合いやの重ね方について追究



少しゆっくりした速さで弾いてみようか。一緒に弾いてみようね。

音を重ねるときに、少しずれてしまうなどしたらいいかな。

スラーだとどんな感じがする？

かけ合いは、スラーとスタッカート、どちらがいいかな。

スラーがいいな。



スラーだと、きれいでやさしい感じになるね。

★授業をふりかえって★


後期の授業研究会での反省を受けて、個人の思いや理解度を把握するために学習プリントを活用して、見取りをした。子どもは、毎時間の学びや全体で共有した言葉を基に、音を介した対話をしていた。しかしグループで、どのような表現にか話し合う際に、「スラーかスタッカートか」というところばかりに意識が向いていた。どのような曲想にしていきたいのか、そのためにどのような表現の工夫をしていくべきかに意識が向くように、発問を工夫していく必要がある。また、音を合わせる際に、互いの表情を見たり音を聴き合ったりできるような場づくりを考えていく必要がある。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画



○ 題材指導計画（4時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師のかかわり	具体的な評価規準
生み出す(1)	<p>1 『せいじゃの行進』の旋律の音取りや節奏の鑑賞をし、聴き取ったり感じ取ったりしたことを共有し、題材のゴールイメージをもつ。 （1時間）</p> <p>○ 題材のめあて</p> <p>それぞれのパートにはどんな役割があるのかな。お互いの音をよく聴いて演奏しよう。</p> <p>○ 旋律や低音の音取り</p>	<p>○ 本題材では常に拡大楽譜を掲示し、演奏したり鑑賞したりした際の気づきを書き込んでいく等、視覚的に学びの足跡を示すことで、第4時の表現の工夫に生かすことができるようにする。</p> <p>○ ジャズ版の『せいじゃの行進』を鑑賞しながら、リズム打ちをしたり体を動かしたりする活動を取り入れることで、かけ合いの特徴やおもしろさを感じ取ることができるようにする。</p> <p>○ フレーズごとに音名唱やリズム打ちをさせることで、旋律の音取りに時間を要する子どもも確実に演奏ができるようにする。</p>	<p>○ 曲の特徴を感じ取り、パートには役割があることを知る学習に進んで取り組んでいる。 （態度） 【観察・発表】</p>
挑む(2)	<p>2 副次的な旋律の音取りをし、旋律パートとの違いを感じ取りながら、演奏する。 （1時間）</p> <p>○ 『山びごっこ』の交互唱</p> <p>○ 『せいじゃの行進』の副次的な旋律の音取り</p> <p>○ かけ合い部分の弱起の入り方</p> <p>○ パート役割</p> <p>（12小節目から）</p> <p>～  ～</p> <p>3 自分や仲間の音を聴き合い、パートの役割に気づきながら演奏する。 （1時間）</p> <p>○ グループで2つのパートを合わせての練習</p> <p>○ パートの役割についての話し合い</p>	<p>○ 『山びごっこ』で教師が「呼びかけ」側、子どもが「こたえ」側に分かれて交互唱をする。教師が速度や声の質感を変えて呼びかけることで、いろいろなかけ合いの仕方があることやそのおもしろさを感じ取ることができるようにする。</p> <p>○ 12小節目からの音が重なる部分では、スラーで演奏したものと歯切れよく演奏したものを聴き比べさせることで、より曲に合う表現を考えることができるようにする。</p> <p>○ かけ合い部分を2つのグループに分かれて歌ったりリズム打ちをしたりすることで、旋律を聴いて休符を感じて演奏することの大切さに気付くことができるようにする。</p> <p>○ スタッカートやスラーでかけ合いをしたり仲間の演奏を聴いたりして、ふりかえりをさせることで、それぞれの表現のよさを認識したうえで第4時の表現の工夫につなげることができるようにする。</p> <p>○ 2つのパートを合わせる際、特に気を付けて演奏する部分を示すことで、互いの音を注意深く聴いて演奏することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12小節目以降の2つのパートの音の重なり方 ・ スラーやスタッカート等の表現の統一 <p>○ 2つめのパートがある合奏とない合奏を聴き比べさせることで、副次的な旋律の効果を実感できるようにする。</p> <p>○ 音の重なり部分の音の長さやタイミングに気を付けて演奏したり仲間の演奏を聴いたりして、ふりかえりをさせることで、それぞれの表現のよさを認識したうえで第4時の表現の工夫につなげることができるようにする。</p>	<p>○ 互いの音を聴きながら、休符を感じてかけ合い部分を演奏している。 （知・技） 【観察・学習プリント】</p> <p>○ 互いの音を聴きながら拍の流れにのって、音の重なり部分の音の長さをそろえて演奏している。 （知・技） 【観察・学習プリント】</p>
本時 生かす(1)	<p>4 かけ合いや音の重なりを、どのように演奏するかについて考え、互いの音を聴き合いながら、ミニコンサートを （1時間）</p> <p>○ グループで表現の工夫</p> <p>○ 発表の聴き合い</p> <p>○ 感想の交流</p>	<p>○ 音や音楽を介して表現の工夫をしているグループを価値付けることで、話し合いの仕方を理解したうえで、細かなところまで仲間と意見を共有することができるようにする。</p> <p>○ 自分たちや仲間の演奏について感じたことを学習プリントに書かせ、互いの感想を交流させることで、互いの音を聴き合って音を合わせる楽しさを実感できるようにする。</p>	<p>○ 曲想に合ったかけ合いや音の重なり方をどのように表現するかを考え、音を合わせて演奏することができる。 （思・判・表） 【学習プリント】</p>

○ 本時の目標

かけ合いや音の重なり方をどのような表現するかを考え、音を合わせて演奏することができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 前時までの学習のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ かけ合いと音の重なりに気を付けた演奏 <p>2 本時学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>かけ合いの仕方や音の重なり方をくふうして、ミニコンサートをしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の流れの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような演奏にするかについての話し合い ・ グループごとで練習 ・ それぞれの演奏の聴き合い <p>3 『せいじゃの行進』の曲想に合った演奏について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想について（全体） ○ 演奏の工夫について（グループ） <p>（例）</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; font-size: small;"> <p>スラーだと、ふわっとなめらかな感じになるね。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; font-size: small;"> <p>スタッカートだと、はずんで元気な感じになるね。</p> </div> </div> <p>・「学習プリントには、スラーだと穏やかな感じがしたと書いているね。明るい行進の雰囲気を出すなら、スタッカートとどっちがいいか、弾いて決めよう。」</p> <p>4 それぞれのグループで3つのパートを合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループでの練習 ○ 全体で互いの演奏の聴き合い <p>5 本題材の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習プリントの記入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間と音を聴き合いながらかけ合いや音の重なりを合わせることができたか ○ 感想の発表と共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ アンサンブルについて 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体を半分に分け、それぞれ旋律と副次的な旋律を担当して演奏させることで、それぞれのパートの役割を想起することができるようにする。 ○ 拡大楽譜でかけ合いや音の重なり箇所を確認したうえでこれまでの学習を想起させ、キーワードを子どもから引き出しながらめあてを設定する。 ○ 本時のめあてを確認した後、「ミニコンサートをするためにどんな準備が必要かな？」と問うことで、本時にどのような活動が必要か考えることができるようにする。 ○ 個々の曲に対する思いを板書し、「そんな音楽にするにはどんな表現にすればよいか？」と問うことで、具現化するための必要な表現方法について考えることができるようにする。 ○ 学習プリント等を見ながらこれまでの学習をふりかえったうえで話し合うよう伝えることで、以下のような演奏の工夫の視点を明確にしながらかけ合いができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ かけ合い部分（スラーやスタッカート） ・ 音の重なり部分（音の長さやリズム） ○ 音を介して対話したりいろいろな演奏方法を試したりしているグループを価値付けることで、よりよい話し合いの仕方を理解したうえで仲間と細かな部分まで思いを共有することができるようにする。 ○ 工夫の仕方が分からない子どもに対しては、教師の範奏を聴かせながらどのような演奏にしたいかを考えるよう促すことで、主体的に話し合うことができるようにする。 ○ グループで合わせる際は低音も挿入させ、指揮をしながら低音の音を聴かせることで、低音が拍を刻んでいることに気付くことができるようにする。 ○ 演奏者・鑑賞者がそれぞれ心掛けることについて以下のことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫した点が伝わるように演奏する。（演奏者） ・ それぞれのグループの、表現の違いやよさはどんなところにあるのか聴き取る。（鑑賞者） ○ 互いに音を聴き合って演奏するよさを味わっている子どもの感想や、今後の課題に目を向けている子どもの感想を取り上げることで、アンサンブルへの興味を広げることができるようにする。

○ 本時の評価規準

曲想に合ったかけ合いや音の重なりをどのように表現するかを考え、互いの音を聴きながら音を合わせて演奏している。
（思考・判断・表現）【観察・学習プリント】